

# 年齢別選手権開催される。

村越 真

三河高原 2003 / 世界選手権 2005 愛知プライベート

三河高原 3days 大会は土砂降りの雨で幕をあげた。それでも競技中は雨が上がり、高精度の地図を手に身近なライバルと火花を散らす真剣勝負！

## 日本で初めて？

8月15日、三河 3days 大会の一環として、中日東海ブロック大会兼年代別選手権が開催された。中日東海ブロックは東海地区で25年以上続いている歴史ある大会で、ご存知の方も多いだろうが、年代別選手権は「本邦初公開」である。

競技スポーツは、かつてのように若者だけのものではなく、歳を重ねても自分の限界に挑戦するスポーツ愛好者が増えているのだ。そのため最近他のスポーツでも、35歳以上、40歳以上、・・・のように年齢を区分し、同じ体力レベルの中でトップを競えるマスターズ選手権が開催されるようになった。もともと年齢別クラスのあるオリエンテーリングでは、全日本が本来ならこうした年齢別でのトップを競う場であるが、トレインやレースのコントロール、参加者の意識という点から、マスターズ選手権というにはほど遠い。日本にも、中高年が挑戦し、活躍できる場を作りたい、年代別選手権はその思いから発想された。

## スーパーマップを走る楽しさ

当日は、夏とは思えない涼しい天候で、しかも午前中は一時は開催も危惧されるほどの土砂降りであった。しかし、午後には雨もほとんどあがった。下はぐちゃぐちゃだったようだが、まずは良好なコンディションの中で大会が開催された。

利用されたトレインはすでに地図が公開されている「黒坂・切山」。2005年の世界選手権に向けてリリースされたトレーニング地図の第二弾である。実は4月の日本代表選手選考会でも利用されたが、「手にとったとたん感動が走った」と称された美(微)地形、そしてそれを正確に表現したマッピング。コースは、その真価を発揮することを抑えたプランニングであったが、それでも参加者はトレインの面白さを

堪能し、オリエンテーリングの楽しさを再発見したのではないだろうか。

## 同じ土俵で戦う楽しさ

年齢無制限のエリートを制したのは、世界選手権でも予選通過にあと一步とせまり、今期好調の高橋善徳と、やはり世界選手権でスプリントで23位を記録した塩田美佐であった。いずれのタイムも2位を大きく引き離す圧倒的なタイムであった。

年代別クラスを見ると、往年のエリートや常連の顔が見られる。35歳以上のクラスでは、橋本裕志と宮川祐子がいずれも1分ほどの僅差で初代チャンピオンとなった。45歳クラスでは、前号の巻頭言で「年代別選手権の理念」を語った杉山がしばらくトップにたっていたが、小山清に敗れた。残念なことにWクラスには参加がなかった。

また55歳以上では、女性は地元の若松リツ子が、男性では韓国の河泰鉉が優勝した。河のタイムは2位を3分も離す圧勝であった。65歳以上では、高橋厚と石田美代子がトップであったが、女性クラスは参加一人というのがさびしい。

また若年層クラスでは、M18で地元東海高校の山倉貴之が圧勝。M15では宇野夏樹がいならば東海高校・中学勢をわずかに抑えた。またW15とW12では、高野美春、夏美の姉妹が優勝したが、いずれも参加者一人であった。

参加者の分布を見ると、集中するクラスがある反面、若年層では東海高校・中学からの大量の参加があったことを除くと、全体的に参加が少ない。若年愛好者の減少はどこでも問題になっている。年代別の理念を拡大し、マスターズクラスだけでなく、若年参加者の増加も図りたいものだ。

(村越 真)



年齢別選手権の翌日開催されたクラブカップに併設された キッズO コース  
縮尺は 1:2,000。会場となった学校の校庭と学校の裏山を結んだコース。